

うち・そとの仲間たちと学び育てよう！里山の生き物と地域の未来

ーおやじの料理教室・生き物ブランド・遊び・インターンシップ等々、各地事例から学ぶ新視点ー

2014年12月14日

東京農業大学学術研究員 出川真也

1. 生き物の里と地域を育てる4つの視点

- (1) 地域に根ざした住民の日常的な活動の創出
- (2) 地域運営の視点（地域活性化の視点）
- (3) 保全と活用（活用による保全効果の最大化）
- (4) 外とのつながりづくりの視点

2. 生き物と地域づくりに取り組む各地事例の紹介

- (1) おやじの料理教室から里山・生き物保全活動へー滋賀県近江八幡市の事例ー
- (2) 生き物をシンボルにした地域ブランド作りー神奈川県茅ヶ崎市 タゲリ米の事例ー
- (3) 環境を利用した遊びと人材育成ーNPO 大地の事例 里山の保全と活用ー
- (4) インターンシップ・フィールドワーク等の受け入れと活用
ーサービスマーケティング・参加型アクションリサーチなど大学の地域参加カリキュラムの活用ー

3. 取り組みを確実に進めるためのプロセス検討

調査・構想→検討・試行→実行計画策定・体制整備→実施→検証・評価→・・・

(参考) 地域づくりに関する10の命題 (E. ハミルトン「成人教育は社会を変える」玉川大学出版2003. p. 27)

- ① 高い水準の知識と技術を持っている市民団体は、活動の目標を成功裡に達成できる可能性が高い。
- ② 意思決定に向けて協力し合える市民は、変革をめざす活動に強い責任感と意欲をもって参加しつづけることができる。
- ③ 地域住民が実際に抱いているニーズを充足させようとする取り組みでは、そうでない活動に比べ、より多くの市民の協力が得られる。
- ④ 地域に根ざした活動に協力する専門家のうち、自分たちの役割をファシリテーター（学習支援者）として認識している者は、地域住民に受け入れられやすく、信頼も得やすい。
- ⑤ 地元主導で行なわれる地域課題の解決手法は、行政の画一的な介入よりもよい結果を生み出す。
- ⑥ 成人の学習が住民組織の中の活動として行なわれることによって参加者の間で横のつながりが強まり、地域の課題の解決に向けて効果的に活動できるようになる。
- ⑦ 通常の場合、フォーマルな教育は、社会変革をもたらすというよりも、社会の現状を維持する方向に働く。これに対し、ノンフォーマル教育は社会変革、つまり、社会の現状を改良する (reform)、あるいは抜本的に転換させる (transform) ことを促すための目標に答えようとするものである。
- ⑧ 民主主義の考え方によれば、人々が自分の運命を自分自身で決めようとするーつまり自己決定の努力をするーことによって、自立をめざした動きが起りやすくなる。
- ⑨ 多くの地域社会には、才能やエネルギーの面から見ていろいろなタイプの住民が居住している。彼らが組織化されたとき、それらの能力を地域社会の向上のために活用することができる。
- ⑩ 社会変革はボトムアップ方式ですすめられるべきである。なぜなら、ボトムアップ方式は住民が自分の考えを表明する場を保障するため、住民参画への強い動機づけとなり、地域社会に潜むニーズの把握、活動の計画と実施、地域づくりを民主的にすすめることに役立つからである。